

## 体外受精を希望する患者カップルへの支援を考える ～IVF-IC 説明会でのアンケート調査報告～

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック ○清原真理

### I. 緒言

A 施設では体外受精（以下 IVF）を希望する患者には、体外受精インフォームドコンセント（以下 IVF-IC）説明会に二人で参加することを IVF の治療開始条件としている。（同日に二人で参加できない場合は別日でも可能）IVF-IC 説明会に参加した患者に対し、カップルで参加することが必要だと考えるか、カップル間で自分の気持ちを話せているか、今後の不妊治療への考えが一致しているかなどアンケート調査を実施したので報告する。

### II. 実践内容

対象は 2015 年 3 月～4 月に行った 3 回の IVF-IC 説明会に参加した 94 組、一人で参加された方も含め、女性 94 名、男性 85 名とした。アンケートは説明会開始前に配布し、終了後に回収した。回答は選択式に加え自由記述式とし、アンケートの趣旨、無記名で匿名性の保証、などを口頭と書面にて説明した上で実施した。

### III. 結果

3 回分、合わせてのアンケート回収率は 99% であった。カップルで参加することが必要だと考えるかとの問いでは「はい」が 92%、「いいえ」が 5% であった。カップル間で自分の気持ちを話せているか、では「よく話す」「まあまあ話す」が 83%、「少し話しているがもっと話したい」「話せていない」が 9% であった。また、今後の治療についてパートナーと意見が違ふ、と答えたのは男性 19%、女性 28%、カップル間の治療に対する思いに差を感じるか、との問いでは、「感じない」が 61%、「感じる」が 26% であった。具体的な思いの差について、男性は「心身の負担は妻の方が辛いから」との答えが多く、女性は「年齢的に急がないといけない事を理解してもらえない」や「夫は一般不妊治療を希望している」「夫は積極的ではない」という意見があった。

### IV. 考察

ほとんどの参加者が IVF-IC 説明会にはカップルで参加する事が必要と答えた。また、二人で話し合いを行っていても、治療に対する意見の相違や、思いに差を感じている、カップルも少なくない事が分かった。その中で、女性は年齢的な焦りなどから早く IVF を希望するのに対し、男性は女性の心理的・身体的負担を気に掛け、もう少し一般不妊治療と考える傾向にあると感じた。その後の治療選択には、カップル間でのコミュニケーションや、十分な話し合いが行われることが大切である。私たち看護師はカップルが納得して治療を受けられるよう、適切な情報提供を行い支援していくことが必要と考える。

### V. 今後の課題

今後、IVF-IC 説明会にて今回の「アンケート調査結果」を開示し、男女間では考え方に相違があることは当たり前であり、治療に対して二人で話し合い、互いの思いを伝え合う事が、納得した治療に繋がるのではないかと、ということを伝えたい。また、カップルで来院時には互いの考えを表出できる環境を提供するよう心掛け、看護者は感情の橋渡しや鏡の役割を担い、互いの意見が伝わる様支援していく必要があると考えている。